

日本地域学会ニューズレター

2021年 no.2

令和3年8月25日

目次

I.	副会長挨拶	… 2
II.	日本地域学会第58回年次大会（令和3年10月9～10日） 開催について	… 3
III.	令和3年度日本地域学会総会（令和3年10月9日） 出席のお願い	… 4
IV.	理事会報告 令和3年度第1回理事会—第6回理事会	… 5
V.	委員会報告	… 8
	1. 学会賞選考委員会	
	2. 機関誌編集委員会（第69-70回についての報告）	
	『地域学研究』バックナンバー申込み	… 11
	正会員入会申込書	… 12

I. 副会長挨拶

日本地域学会

副会長 浅見泰司

2021・2022年度の副会長を拝命いたしました浅見です。他の副会長や役員の皆様とともに徳永澄憲会長をお支えし、本学会のより一層の発展に尽力したいと思っております。

私が地域科学に取り組むようになったのは、東京大学工学部都市工学科で都市解析という科目に触れ、経済学的な都市モデルの源に地域科学があることを知ってからです。修士課程修了後、ペンシルヴァニア大学の地域科学専攻に留学し、本格的に地域科学を学ぶことになりました。当時はまだ、地域科学の創始者であるWalter Isard先生がおられ、また、Isard先生らにひかれて集まった先生方が教鞭をとっておられました。当時、地域の問題を経済学、社会学、オペレーションズリサーチなどのモデルを援用して、新たな地域科学という分野を打ち立て、ペンシルヴァニア大学は地域科学分野の発展をけん引していました。Isard先生との共著論文を書く機会に恵まれたのですが、研究打合せをしていた休日に、ちょうど夏時間になったことを知らずに、約束の時間に1時間遅れて行ってしまうという大失態をしたことがあります。謝る私に対して、ニコニコしながらコーヒーを飲み、すぐに研究の話に入ったのを見て、心の広さに感激しつつも、本当に研究が好きな人なのだなあと感じたことを思い出します。ペンシルヴァニア大学では、Tony Smith先生に主査を、藤田昌久先生とXavier Vives先生に副査をお願いし、付値地代のゲーム理論的考察に関する博士論文をまとめました。そして、東京大学にもどってからは、都市計画的アプローチと都市経済学的アプローチのはざままで両者の整合性を追求する研究を行ってきました。

日本地域学会は、経済学、社会学、工学、農学など様々な研究者の学際的な学会となっています。経済

学と工学の両方に身を置いた経験から、自分自身の中で学際性を追求しています。都市政策に限っても、都市計画の立場からは規制強化が推奨され、都市経済学の立場からは規制緩和が推奨されるという真っ向から対立する言説がしばしば出されてきました。両者には基本的な（暗黙に仮定している）モデルにおける人の行動原理や社会規範に関する仮定に違いがあり、そのためにこのような矛盾する結論が導かれます。その2つを相対化することで、初めて、両者を論理的に統合・理解することが可能になります。

近年の複雑化する社会問題に対峙するには、単一の学問分野だけでの解決は望めず、多分野連携による総合的な分析・考察が必要になってきています。地域課題を解決するための学問である地域科学が学際的であることの強みがますます重要になってくると認識しています。その強みを強化し、社会に貢献できる学術的成果をより多く出せる日本地域学会となるよう努力していきます。

日本地域学会では、*Asia-Pacific Journal of Regional Science*という英文誌および*New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives*というSpringerのシリーズを主宰しています。国際誌や英文出版シリーズといった発表をルートに学会が持っていることは、学会のグローバル化において大きな意味を持っています。学会の国際的なアイデンティティは、組織そのものではなく、組織が生み出す学術的な成果が集約される論文誌や学術書に結実されるからです。このような学会が提供する機会を有効に活用していただき、国際的な研究成果をアピールしていただけるよう、これらの発展にも注力していきたいと考えています。

地域科学の益々の発展に微力ながら貢献し、日本地域学会を会員皆様とともに盛り上げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

II. 日本地域学会第 58 回年次大会のお知らせ

2021 年 10 月 9 日(土)-10 日(日)

新型コロナウイルス感染拡大により、第 58 回(2021 年)年次大会は全面オンラインで開催することになりました。

開催日:2021 年 10 月 9 日～10 日

会場:オンラインで実施(参加方法は別途連絡)

運営:高知大学

大会プログラム:(2021.7月上旬に公開予定)

発表論文集:(2021.9月下旬に公開予定)

(大会実行委員)

委員長 大槻知史(高知大学)
副委員長 藤岡正樹(高知大学)
委員 正岡利朗(高松大学)
委員 中澤純治(高知大学)
委員 松本明(高知大学)
委員 近藤明子(四国大学)
委員 島根哲哉(香川大学)

(サイバー組織委員会(Digital Twinning Committee))

委員長 石橋健一(愛知学院大学)
大西学(名古屋外国語大学)
鐘ヶ江秀彦(立命館大学)
酒井宏平(立命館大学)
城月雅大(名古屋外国語大学)
留野僚也(立命館大学)
副委員長 豊田祐輔(立命館大学)
藤岡正樹(高知大学)

(大会事務局)

〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1 高知大学 地域協働学部 大槻研究室

E-mail: jsrsai2021@gmail.com

(大会への参加)

<参加費(オンライン会場)>

	発表参加	聴講参加 *含む共著者、 座長、討論者
一般会員	5,000 円	3,000 円
学生会員	3,000 円	2,000 円
非会員	-	8,000 円

*聴講参加は、日本地域学会ホームページに掲載されております「年次大会申込フォーム」よりお申込み下さい。聴講参加者の参加登録期間は、2021 年 8 月 4 日(水)-9 月 24 日(金)です。

※聴講参加費は銀行振込またはクレジットカード決済での事前納入のみとなります。

※納入に関わる手数料は別途ご負担をお願いします。

※参加登録後のキャンセルの取り扱いについて:

「日本地域学会高知大会キャンセルポリシー」第 4 条、第 5 条に基づき対応

・ただし、新型コロナ感染症の感染拡大を防止するため大会実施形態を変更したことを踏まえ、今大会のキャンセル料は無料とする。

・キャンセルに伴い参加費の返還が発生する場合、返還に関わる事務手続き費用は参加登録者の負担とする。

*発表申込は終了しました

大会スケジュール

<2021 年 10 月 9 日(土)>

10:00-10:30	開会式
10:30-12:00	総会
13:00-17:30	セッション A(10 セッション)
第 1 発表	13:00-13:45
第 2 発表	13:45-14:30
(コーヒープレイク	14:30-14:45)
第 3 発表	14:45-15:30
第 4 発表	15:30-16:45
第 5 発表	16:45-17:30

<2021年10月10日(日)>

10:00-13:15	セッションB(10セッション)
第1発表	10:00-10:45
第2発表	10:45-11:30
(コーヒーブレイク	11:30-11:45)
第3発表	11:45-12:30
第4発表	12:30-13:15
14:30-16:30	公開シンポジウム「大規模 災害に備える地域づくり」 (オンライン配信)
16:30-17:00	閉会式

(公開シンポジウム)

- ・テーマ:「大規模災害に備える地域づくり」
- ・主催:高知大学防災推進センター/日本地域学会
- ・後援(五十音順)(決定済のみ):
一般社団法人 日本計画行政学会, NHK 高知放送
局, NPO 法人 日本シミュレーション&ゲーミング学会

- ・日時:2021年10月10日(日)14:30-16:30
- ・場所:オンライン配信

・趣旨:

令和時代の日本は「いつか」必ず来る南海トラフ巨大地震・首都直下地震,そして「いつも」やって来る気象災害の両者への対応が必要である。他方,都市,農漁村部ともに高齢化が更に進む中で,ハード・ソフトの両面から大規模災害に備える地域づくりの新しい仕組みが求められている。

本シンポジウムでは基調講演者として都市防災研究の第一人者として活躍された後,自主防災会長として地域防災の推進に奮闘されている梶秀樹氏(筑波大学 名誉教授)を迎え,学術知と住民の経験知を繋ぎ合わせて地区特性に合わせて地域防災を行うポイントを紹介いただく。その上で,松本敏郎氏(高知県黒潮町 町長)より同町における南海トラフ地震対策の地域づくりの先進事例について,笹原克夫氏(高知大学防災推進センター センター長)より高知県の土砂災

害及び防災まちづくりにおける大学の役割について話を頂きながら,令和時代における「大規模災害に備える地域づくり」のあり方について議論を行う。

・内容:

基調講演: 梶秀樹氏(筑波大学 名誉教授)

パネルディスカッション(順不同):

進行: 大槻 知史氏(高知大学防災推進センター)

パネリスト:

笹原 克夫氏(高知大学防災推進センター センター長)

梶 秀樹氏(筑波大学 名誉教授)

松本 敏郎氏(高知県黒潮町 町長)

Ⅲ. 令和3年度日本地域学会総会

令和3年10月9日(土)

日本地域学会会員各位

日本地域学会

会長 徳永 澄憲

本年度総会を下記要領で開催致しますのでご出席ください。なお,欠席される場合には日本地域学会ホームページに掲載されております「年次大会申込フォーム」より,委任状をご提出下さい。

記

日時:令和3年10月9日10:30-12:00

場所:オンラインで実施

総会次第

1) 開会の辞

2) 会長挨拶

3) 議題

(1) 新入会員・退会希望者の承認

(2) 令和2年(2020)度の事業報告の承認

(3) 令和2年(2020)度の収支決算の承認

(4) 令和4年度の事業計画の承認

(5) 令和3年度の収支予算(修正案)の承認

(6) 令和4年度の収支予算の承認

(7) 名誉会員の承認

- (8) 第 59 回(2022 年) 年次大会の開催地
開催校等の承認
 - (9) 第 60 回(2023 年) 年次大会の開催地
開催校等の取扱いの承認
 - (10) その他
- 4) 報告
- (1) 新入会員キャンペーンの継続
 - (2) 『地域学研究(第 51 巻)』の編集
 - (3) RSAI の動向
 - (4) PRSCO の動向
 - (5) 学会賞受賞者報告

以上

IV. 理事会報告

令和 3 年度 日本地域学会 第 1 回 理事会
日 時: 令和 3 年 4 月 17 日(土) 12:30-14:45
場 所: オンライン(zoom)

出席者:朝日, 浅見, 石橋, 内田, 鐘ヶ江, 木南(莉), 國光, 佐々木, 渋澤, 鈴木, 高橋, 多和田, 徳永, 中山, 野崎, 氷鮑, 福井, 藤田, 正岡, 松本, 水野谷, 三友, 柳原, 藪田, 吉田の各理事(ただし, 櫻井, 高野の各理事より委任状付託; 以上理事 25 名出席); オブザーバとして, 臼井名誉理事, 藤岡名誉理事, 大内田監事, 梶井監事, Springer 平地氏, 大槻年次大会実行委員長, 小川, 内藤, 野崎, 篠崎, 黛の各幹事

議題

徳永会長より, 挨拶があった。

1. 新入会員・退会希望者の承認
水野谷総務担当常任理事より, 入会 10 名, 退会 21 名の報告があり, これを諒承。この結果, 正会員 1,002 名, 法人会員 6 団体となった。
2. 令和 2(2020)年度決算(案)の審議と承認
櫻井財務担当常任理事の代理で水野谷総務担当常任理事より, 令和 2 年度決算(案)について説明があり,これを諒承。

3. 令和 3(2021)年度修正予算(案)の審議と承認
櫻井財務担当常任理事の代理で水野谷総務担当常任理事より, 令和 3(2021)年度修正予算(案)について説明があり,これを諒承。
4. 令和 4(2022)年度予算(案)の審議と承認
櫻井財務担当常任理事の代理で水野谷総務担当常任理事より, 令和 4(2022)年度予算(案)について説明があった。2 箇所の内容修正提案があり, これを諒承。
5. 2020 年度事業報告(案)
内田事務局次長より, 2020 年度(令和 2 年)の事業報告があり, これを諒承。
6. 2022 年度事業計画(案)
内田事務局次長より, 2022 年度の事業計画の説明があり, これを諒承。
7. 第 58 回(2021 年)年次大会の並行セッション及びシンポジウムの編成
大槻実行委員長より第 58 回(2021 年)年次大会の説明があり, これを諒承。
8. 日本地域学会年次大会規程の改正について
水野谷総務担当常任理事より, 大会発表者登録の状況について説明があった。
非会員の参加者が年次大会参加費を支払わない事例があったことに関連し, 規定の改正(参加費の事前支払いとし, 未納者は参加できない)(特別セッションにおける招待者の扱い方)を行い, 今年度の年次大会より適用することで, これを諒承。
9. 第 59 回(2022 年)年次大会について
水野谷総務担当常任理事より麗沢大学での開催について報告があり, 麗沢大学を代表して徳永会長の挨拶があった。
10. 『地域学研究』セット販売の推進
内田事務局次長より, 『地域学研究』セット販売の推進についての説明があり, これを諒承。
11. 新入会員勧誘キャンペーンの推進
水野谷総務担当常任理事より, 担当者の確認と更なる会員の拡充と, 北海道ブロックの退会者との交代及び, メールアドレスや所属・ブロック変更など, 説明があり, これを諒承。

12. その他

特に無し

報告事項

1. 名誉会員推薦委員会報告

臼井名誉会員推薦委員長より、新たな4名(細江・高橋・戸田・阿部各会員)の名誉会員の推薦について報告があった。

2. 第1回学会賞優秀発表賞選考委員会報告

水野谷総務担当常任理事より、最優秀発表賞の授与者の決定について報告があった。

3. 第1回学会賞選考委員会報告

水野谷総務担当常任理事より、7月の理事会まで引き続き授賞候補者の推薦受付を行うこと及び推薦の依頼があった。

4. 機関誌編集委員会報告

多和田機関誌編集委員長より、機関紙の投稿状況について報告があった。Editorial ManagerにおけるAdditional Refereeのカテゴリの削除について報告があった。

5. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

氷鉤企画担当理事より、APJRSの出版が順調であること、投稿状況とCitationの状況、次年度以降の編集体制5名の検討、今後の表彰制度の検討に関して報告があり、これを諒承。

6. RSAIの動向

木南(莉)理事及び氷鉤企画担当理事より、2月26日のRSAIの会議結果について報告があった。また、RSAIの世界大会(マラケシュ)のこれまでの発表登録数と4月15日までのRegistration延長について報告があった。

7. PRSCOの動向

2021年はベトナムで4月30日にアブストラクトの締め切りとなる。昨年のハワイはキャンセルとなった。2022が京都開催となった。(2023 フィリピン, 2024 韓国, 2025 ミャンマー)

次期事務局長は、庶務担当鈴木常任理事となる旨の報告があった。

8. その他

- ・ 日本経済学会連合国際会議派遣補助の件
鐘ヶ江理事より、現理事長の続投、Youtubeにおけるアカデミックチャンネルの解説による情報提供、web出版についての説明があった。
- ・ 事務局次長内田より、事務局の外注化について、業者への外注を視野に、どの程度の仕事が外注可能であるのか、また予算との兼ね合いを検討中であることを説明があった。

令和3年度 日本地域学会 第2回 理事会
(持ち回り開催・メール審議)

審議期間：

令和3年5月6日～5月13日(木) 15:00

議題

1. 新入会員の承認

入会1名の報告があり、これを諒承。この結果、正会員1,003名、法人会員6団体となった。

2. アジア不動産学会 2022年東京国際大会(AsRES2022)への協力についての報告があり、これを承認。

令和3年度 日本地域学会 第3回 理事会
(持ち回り開催・メール審議)

審議期間：

令和3年5月19日～5月21日(金) 15:00

議題

1. 新入会員の承認

入会2名の報告があり、これを諒承。この結果、正会員1,005名、法人会員6団体となった。

2. 資産評価政策学会主催 2021年度総会シンポジウム「固定資産税評価、不動産鑑定はどこまで必要か」後援名義使用について 標記名義使用について、諒承。

令和3年度 日本地域学会 第4回 理事会
(持ち回り開催・メール審議)

審議期間：

令和3年6月17日～6月23日(水) 15:00

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認
入会 2 名, 退会者 1 名の報告があり, これを諒承。
この結果, 正会員 1,006 名, 法人会員 6 団体となった。
2. 千葉商科大学主催 第 7 回全国高校生「環境スピーチコンテスト」後援名義使用の件
標記後援名義使用について諒承。

令和 3 年度 日本地域学会 第 5 回 理事会

日時: 令和 3 年 7 月 17 日(土) 13:00-15:10

場所: オンライン(zoom)

出席者:朝日, 浅見, 石橋, 内田, 鐘ヶ江, 木南(莉), 國光, 佐々木, 渋澤, 鈴木, 高野, 高橋, 多和田, 徳永, 中山, 野崎, 氷鮑, 藤田, 正岡, 松本, 水野谷, 柳原, 藪田, 吉田の各理事(以上理事 24 名出席); オブザーバとして, 臼井名誉理事, 藤岡名誉理事, 大内田監事, 大槻 2021 年次大会実行委員長, 池川 2022 年次大会実行委員, 小川, 内藤, 野崎, 篠崎, 古澤, 黛の各幹事

議題

徳永会長より, 挨拶があった。

1. 新入会員・退会希望者の承認
水野谷総務担当常任理事より, 入会(再入会)1 名があり, これを諒承。この結果, 正会員 1,007 名, 法人会員 6 団体となった。
2. 令和 2 (2020) 年度決算(案)の修正について
(監査済み)
内田事務局次長より, 令和 2 (2020) 年度決算(案)の修正について説明があり, 大内田監事より監査が終了している旨説明があった。これを諒承。
3. 令和 3 (2021) 年度予算(修正案)の修正について
内田事務局次長より, 令和 3 (2021) 年度予算(修正案)の修正について説明があり, これを諒承。
4. 第 58 回(2021 年)年次大会の並行セッション及びシンポジウムの編成
大槻大会運営委員長より, 実施形態の変更(全面オンライン化)について説明があり, これを諒承。

次に, 同委員長より全面オンライン化における大会参加費用及び参加登録者キャンセルポリシーについての説明があり, これを諒承。これに続き, 大会スケジュール及び大会開催の説明文面についても説明があり, これを諒承。

水野谷総務担当常任理事より, 特別セッションの申し込み状況についての説明があった。年次大会の非会員の参加について日本地域学会年次大会規程第 4 条の適用を厳格に行うことが提案され, これを諒承。これに続き同理事より, セッション座長と討論者の割り当てについて説明があり, これを諒承。

5. 第 59 回(2022 年)年次大会の進捗状況
麗澤大学池川先生(日本地域学会監事)より第 59 回(2022 年)年次大会(開催校:麗沢大学)の進捗状況について説明があり, これを諒承。
6. 『地域学研究』セット販売の推進
水野谷総務担当常任理事より, 『地域学研究』セット販売の推進についての説明があり, これを諒承。
7. 新入会員勧誘キャンペーンの推進
水野谷総務担当常任理事より, 担当者の変更確認, 及び更なる会員の拡充などの説明があり, これを諒承。
8. その他
内田事務局次長より, 学会会員へのアンケート調査を検討している旨の説明があり, これを諒承。

報告事項

1. 機関誌編集委員会報告
多和田機関誌編集委員長より, 機関紙の投稿状況と投稿規定(執筆要領)の改定・投稿テンプレートの作成・超過ページの料金・Editorial Manager のシステムの一部見直しについて報告があった。
2. 第 2 回学会賞優秀発表賞選考委員会報告
水野谷総務担当常任理事より, 論文賞・奨励賞・著作賞の決定者, 博士論文賞の審査進行について報告があった。
3. RSAI の動向
木南(莉)理事より, RSAI Congress 及びモロッコ大会でのキーノートスピーチの URL についての案内があった。

4. PRSCO の動向

2021年のベトナム大会の応募状況について説明があった。

PRESCOの会長は2022-23年に鐘ヶ江理事となる予定。2022年の事務局長は鈴木庶務担当常任理事となる予定である。

鐘ヶ江理事より、2022 京都開催について、ハイブリッドもしくはオンラインでの開催を検討している旨の説明があった。(2023 フィリピン、2024 韓国、2025 ミャンマー)

5. APJRS の動向

氷鉋企画担当理事よりAPJRSの発刊状況および今後の投稿数増加に関する目標について説明があった。特に日本地域学会の若手日本人研究者による英文投稿を期待したい旨の説明があった。

6. その他

特になし。

令和3年度 日本地域学会 第6回 理事会

(持ち回り開催・メール審議)

審議期間：

令和3年8月4日～8月6日(金) 12:00

議題

1. 新入会員の承認

入会15名の報告があり、これを諒承。この結果、正会員1,021名、法人会員6団体となった。

V. 委員会報告

1. 学会賞選考委員会

令和3年度第1回学会賞選考委員会

日時：令和3年4月8日(木) 10:30-11:00

場所：Zoomによるオンライン

出席者：水野谷、渋澤、多和田、徳永、氷鉋、松本、三友、藪田、藤岡の各委員(但し、櫻井委員より委任状付託：以上理事10名出席)：オブザーバーとして小川、野崎(乃)、黛の各幹事

議題

1. 令和2年度第57回年次大会学会賞最優秀発表賞選考の件

選考委員による評価の一覧にもとづき審議した結果、Baffoe Jonathan DARKWAH氏(筑波大学)に最優秀発表賞を授与することが決定された。

主題:Sustainability Understanding of Buriganga River Restoration in Bangladesh by Inclusive Wealth and System Dynamics Modelling

2. 令和3(2021)年度第30回学会賞の選考方針

ここまでの授賞候補者推薦数を鑑み、7月の理事会まで引き続き推薦を受け付け、審議に入ることとした。

3. その他

氷鉋委員より、APJRS掲載論文を対象とした賞を創設することを検討中であることの説明と提案があった。

令和3年度第2回学会賞選考委員会

日時:令和3年7月8日(木)10:30-11:00

場所:Zoomによるオンライン

出席者：水野谷、朝日、浅見、渋澤、多和田、氷鉋、松本、藪田、藤岡の各委員(但し、徳永委員、三友委員より委任状付託：以上理事11名出席)：オブザーバーとして小川、野崎(乃)、黛の各幹事

議題

1. 令和3年度第30回学会賞の選考

審議の結果、以下の通り各賞の授賞が決定された。

功績賞：

該当なし

論文賞：

片岡光彦(立教大学)

主題：Inequality convergence in inefficiency and interprovincial income inequality in Indonesia for 1990-2010

奨励賞：

Carlos Mendez (名古屋大学)

Vo Hoang Ha (University of Economics, Hue University・筑波大学)

著作賞：

中山恵子(中京大学)著『我が国の森林環境税一恒久的な水源涵養の保全に向けて一』

博士論文賞については1名の推薦があったことを確認後、世話人1名、レフェリー2名を決定した。今後、審査結果に基づき持ち回り理事会にて授賞について審議することとした。

2. 令和3年度学会賞授与式について

第58回(2021年)年次大会がオンライン開催の場合、オンラインの授与式で受賞者挨拶のうえ、賞状等は郵送する案が報告された。

3. 著作賞、奨励賞推薦書英文様式

英文の様式が作成された旨、報告がされた。

4. その他

なし

2. 機関誌編集委員会報告

日本地域学会 第69回 機関誌編集委員会

日時:令和3年4月17日(土)11:00-12:00

場所:Zoom によるオンライン方式

出席者(敬称略):多和田,水野谷,柳原,廣野,藤岡,松本,福井,氷鉋,三友,鐘ヶ江,石橋,木南(莉),梶井,渋澤,高橋,鈴木,徳永,内田,内藤,吉田,浅見,木南(章),野崎(謙);オブザーバーとして,小川,野崎(乃),黛,篠崎の各幹事

・審議事項

1. 『地域学研究』第51巻掲載候補論文の選考について

多和田委員長より、レフェリー評価に基づいた、第51巻の掲載候補論文の選考状況について報告がなされた。第51巻1号(8月発刊予定)及び第51巻2号掲載予定論文について諒承がなされた。

2. 『地域学研究』セット販売価格について

多和田委員長より、地域学研究的セット販売価格および定期購読の申し込みについて説明及びセット販売の推進の依頼がされた。

3. その他

・EMの機能(Additional Referee部分)の削除について

内田事務局次長より、EMの事務局の作業効率化を図るために、Additional Referee機能を削除する旨の提案がなされ諒承された。この変更に伴う

編集委員の作業の変更はないことも併せて確認がなされた。

・『地域学研究』掲載論文等の執筆要綱を定める規程の改正(予定)について

現在、表題の規定に、事例研究・ノートなど現在使用していない論文カテゴリーの記載が残っている。次回の編集委員会にて、規定の見直しについて提案される旨、説明がなされた。

報告事項

1. 年次大会の報告論文の投稿依頼について

多和田委員長より、昨年度年次大会での報告論文について、先の機関誌編集委員会において座長の評価に基づき投稿の依頼を行う論文が決定された旨、確認と説明がなされた。

2. 書評の掲載について

多和田委員長より、地域学研究で掲載予定の書評について、説明がなされた。さらに、書籍で載せるべき書評の推薦をお願いしたい旨、説明がなされた。

3. Asian Pacific Journal of Regional Science(APJRS)について

氷鉋企画担当理事より、APJRSについて、Vol.5(1)がすべて一般投稿論文にて発刊されたこと、またVol.5(2)およびVol.5(3)について、現在の発刊の大枠が説明された。また、Editorial Boardのメンバーが5年の任期を迎えるため、新任・再任を検討していることが説明された。加えて、JournalとしてのCitation scoreが高まっているもののImpact Factorをより高めていくことの必要性、Journalとして賞を設けてもよい時期に来ていること、また、PRSCOとの連携の可能性について、説明がなされた。

日本地域学会 第70回 機関誌編集委員会

日時:令和3年7月17日(土)11:00-12:30

場所:Zoom によるオンライン方式

出席者(敬称略):多和田・渋澤・吉田・木南(莉)・浅見・水野谷・内藤・大槻・高橋・鈴木・内藤・柳原・

吉田・古澤・鐘ヶ江・浅見・朝日・氷鮑・木南・野崎・廣野・洪澤；オブザーバーとして、内田，小川，野崎（乃），黛，篠崎の各幹事

・審議事項

1. 『地域学研究』第 51 巻 2 号掲載候補論文の選考について

多和田委員長より、レフェリー評価に基づいて、第 51 巻第 2 号（2 月発刊予定）の掲載候補論文の選考状況について報告がなされ、これを諒承。次回の編集委員会にて掲載の最終決定を行う予定である。

2. 執筆要綱の改定についてについて

内田事務局次長より、地域学研究の執筆要綱規定の改訂案の提案がなされ、改訂部分について様々な観点から議論がなされ、継続審議となった。

3. 投稿用テンプレートの作成について

内田事務局次長より、投稿マニュアルに載せるための、執筆要領に従った「投稿用フォーマット（テンプレート）」の作成がなされ、その旨、報告

された。規定の修正に応じて内容を修正する旨、確認がなされ、これを諒承。

4. EM マニュアルの改訂について

内田事務局次長より、EM の投稿マニュアルについて、現在の投稿手順を反映したものとして、投稿規定に沿った範囲で作成されたことが報告され、これを諒承。

5. EM 審査報告カテゴリの改定について

内田事務局次長より、EM の審査報告カテゴリの名前を変える旨、提案があった。多和田委員長から各委員に確認依頼があり、提案が諒承された。

報告事項

1. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS) について

氷鮑企画担当理事より、APJRS について、Vol. 5(2)および Vol. 5(3)の発刊の大枠について説明がなされた。また、Citation Index を高めていく方策、および、再来年から年 4 冊の発行を目標とすることの説明がなされた。

日本地域学会 正会員 入会申込書

20 年 月 日

日本地域学会
会長 徳永 澄憲 殿

日本地域学会 会則第5条に定める正会員として下記の通り入会を申し込みます。

氏名： 印

記

ふりがな				年 月 日生 歳 ※男・女
氏名				同英文 (last name, first name)
所 属 先	機関名	(年 月より)		同英文
	所属			同英文
	職名			同英文
	所在地	〒		同英文
	電話： ()		fax: ()	
	e-mail			
自 宅	住所	〒 配送希望先※ (どちらかを○) 勤務先・自宅		同英文
	電話： ()		fax: ()	
	e-mail			
学 歴	年 月入学			
	年 月※卒業・修了・満期退学			
職 歴	年 月			
	年 月			
	年 月			
	年 月			
専 門 分 野	専攻：		学位： (大学)	
	<i>Regional Science Association International (RSAI)</i> の研究領域分類 (複数回答可, 入会案内参照)			
	I. ISSUE ORIENTATION		II. THEORETICAL/METHOD-LOGICAL ORIENTATION	
	III. MODE OF ANALYSIS		IV. REGIONAL FOCUS	
所属他学会				
紹介者 (会員に限る)				印

以上 (※は該当項目に○をする)

事務局記入欄	入会承認	年 月 日 第 回理事会	退会承認	年 月 日 第 回理事会
--------	------	--------------	------	--------------